

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 南アルプス市立芦安中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☒ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒400-0242
山梨県南アルプス市芦安安通350番地

E-mail ashiyasu.jhs@m-alps.ed.jp

Website <http://www.ashiyasu.m-alps.ed.jp/>

児童生徒数 男子 7名 女子 11名 合計 18名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1. はじめに

本校は「ユネスコの理念を実現すべく、環境を中心とした取り組みを行って」おり、平成23年度にユネスコスクールに登録された。具体的には、学校林の植樹、夜叉神峠の清掃活動と巣箱や自然愛護看板設置、そして全校登山である。

学校林の植樹では、桜の苗木を学校から40分ほど歩いた場所にある学校林に植えている。苗木についてはシカの食害等が顕著であったが、近年苗木に防護カバーを取り付けていることで、多くが食害を逃れている。

夜叉神峠の清掃活動は、毎年登山前に実施している。グループごとに、登山道のゴミ拾いや環境啓発看板・巣箱の設置等を行っている。生徒数が限られている中ではあるが、登山口にある小屋も掃除し、登山客が気持ちよく登山してもらえるように活動している。

加えて、後述する全校登山を毎年実施している。全校登山は、本校が自然体験活動を重視していることを特色づける大きな柱となっている取り組みである。本校の自然と環境への取り組みは、ユネスコスクールに登録する前から行っていることではあるが、登録によりさらに多くの方々に本校の活動を発信すべく、ホームページなどで積極的に自然環境を啓発する活動を行っている。

2. 主な活動

(1) 環境・生物多様性に関する活動

(1)-1 全校登山

①全校登山の概要

本校の全校登山は、1977年に創立30周年の記念行事として始まった。1992年からは北岳・仙丈ヶ岳・鳳凰三山の三つの山をローテーションで登っている。これらの山々はいずれも南アルプス市芦安地区（旧芦安村）にある。目的の一つに、生徒に中学校生活三年間の全校登山で、日本有数の山が私たちのふるさとにあるという誇りを持ってもらいたい、というものがある。

また、2008年からは毎年テーマを設けて登山学習を行っている。ここ数年、山ごとにテーマが定まっている。具体的には、北岳は「自然環境について」、仙丈ヶ岳は「写真などを使った自己表現」、そして鳳凰三山は「歴史や文化について」である。これらの学習は、地域の登山に詳しい方々や、環境省や南アルプス市役所などから専門家の方々を招くなど、外部との連携を図って行っている。

②仙丈ヶ岳全校登山の実践

i) ねらい

【郷土学習の観点から】

・芦安地域が有する仙丈ヶ岳への登山体験および学習を通して、豊かな感性を養うとともに、山に親しみ、山を知り、山について考え、誇りを持って地域に関わっていこうとする心情を育む。

【環境学習の観点から】

・仙丈ヶ岳の豊かな自然についての学習を進めることで、動植物の生態系を中心に知識を深め、多様な生態系を学ぶ機会とするとともに、私たちに多くの恵みをもたらしていることを理解する。

【自己表現活動の観点から】

・日本有数の自然を有する南アルプスに位置する仙丈ヶ岳について、登山を通して感じたことを写真と詩を使い、工夫して表現しようという態度を養う。

ii) 登山学習の経過

○仙丈ヶ岳をよく知り登山しよう【地元登山支援者 清水さん】

仙丈ヶ岳の開山の歴史や今回登るコースの概略、そして芦安地域に仙丈ヶ岳をはじめとする南アルプスの多くの山があることを説明していただいた。

○南アルプス自然環境の現状【環境省 自然保護官事務所 仁田さん・大石さん】

ライチョウやキタダケソウは氷河期の残存種でありとても貴重であることや、シカが標高2000m以上にまでやってきて草花を食べていることなど、現在南アルプスにおける自然環境の現状を説明していただいた。

○仙丈ヶ岳に登った感動を表現しよう

仙丈ヶ岳に登って印象深かったことを詩にまとめた。「伝えたいこと」「聞く人のこと」「リズム」を意識した作品が多くできた。作品は学園祭で掲示を行った。

iii) 仙丈ヶ岳登山

仙丈ヶ岳登山は7月10日（金）、13日（土）の1泊2日で実施した。本番当日は天候に恵まれて、2日目には無事山頂にたどり着くことができた。全員で協力して、参加生徒は全員無事に登山を成功させることができた。山頂へは2日目の早朝に到達し、ご来光を仰ぐことができた。それぞれの思いを書き記した横断幕を山頂に掲げて写真を撮ることができたことは、生徒にとっても大きな達成感だったと思う。

iv) 成果と課題

【成果】

○全校登山の一連の活動を通じて、南アルプスという日本有数の山岳地域に私たちが暮らしていることに対する誇りや環境保護の大切さを感じることができた。

○山に関わる様々な方との交流の機会を通じて、南アルプスの自然の奥深さや登山に対する幅広い見識を得ることができた。

○登山学習や当日の登山を通して感じた、自然の雄大さや貴重な動植物の大切さを詩にすることで、自分の思いや考えをメッセージとして表現することができた。

【課題】

○全校登山は総合の時間が主であるが、総合だけでなく様々な教科との関連や連携を図ることで、生徒にとっても登山や環境について身近に感じられると思う。

○全校登山の取り組みは教師が主体となっていく場面が多い。登山学習を進める中で、生徒がもっと主体となる場面を多くすることで、生徒自らが環境などに対する問題意識を高めることができると考える。

(1)-2 学校林植樹

・本活動は、4月26日（日）の午後、授業参観やPTA理事会の後に生徒、保護者、教職員で実施した。昨年度に引き続き、桜を生徒一人1本植えた。

(1) - 3 夜叉神登山道清掃活動

・本活動は、6月22日(月)に、教員と生徒にて実施した。内容としては、夜叉神峠付近の環境美化活動(登山道のゴミ拾いと小屋の清掃)と自然愛護活動(小鳥の巣箱の設置及び修理)である。教員と生徒がチームを組み分担して活動にあたった。特に、峠道のゴミについては、道を外れたところに多くのゴミがあった。生徒は時間いっぱいまで意欲的に活動していた。そして同時に、生徒の口からはどうしてこれほどまでにゴミが存在するのかといった驚きや疑問の声が上がった。この活動を通じて、自然を自然のまま残すことの大切さと大変さなど、多くの気づきを得たものとする。

(2) 国際理解に関する活動

(2) - 1 Be Open Project

①Be Open Project の概要

南アルプス市教育委員会、株式会社 ATL システムズの協力を得て、Be Open Project の Conference を平成 28 年 2 月 22 日(月)に本校多目的室で行った。本プロジェクトは Skype を用いて、海外との同時中継を結び、コミュニケーションを図るものである。本年度はオーストラリア-St. MacKillop 校、アメリカニューヨーク在住の日本人大学生との交流を図った。

②Be Open Project の実践

i) ねらい

【国際理解学習の観点から】

- ・ 普段学習している英語学習の成果として、実際に英語を母語とする人や、海外で生活を送る人と英語を通してコミュニケーションをすることで、海外の学校生活の様子を知る機会とする。
- ・ 国際社会に生きる日本人として、自国の文化を再確認する機会とする。相互のプレゼンテーションを通して、自文化理解とともに異文化理解を深める。
- ・ 今後の英語学習の動機づけとする。

【自己表現活動の観点から】

- ・ 英語でプレゼンテーションを行う中で、文法や発音の正確さだけが相手に伝えるための技術ではないことを知る機会とする。話す速度や声の大きさ、顔の表情や目線・ゼスチャーなども取り入れ、聞き手に伝わりやすいように表現しようという態度を養う。

ii) Be Open Project の経過

平成 27 年 10 月 21 日(水)を皮切りとし、当日までに 7 回の Be Open Project ワークショップを設けた。中学 1・2 年生チームと中学 3 年生チーム(さらに小学 5・6 年生チーム)に分かれ、自分たちの住む芦安について、をテーマとして原稿の作成を行った。ワークショップの中では、原稿の作成、英訳、発音やイントネーションの確認、基本的なプレゼンテーションスキルなどについて学んだ。

iii) Conference 当日の様子

当日は 3,4 校時帯(日本時間にして 10:30~12:30)に行った。学校外からも南アルプス市市長をはじめ、4 名の外国人コメンテーター、他たくさんの方々の見守る中、盛大に開催することができた。まずは自分たちのプレゼンテーションを行った。続いて St. MacKillop 校のプレゼンテーションの発表を聞いた。オーストラリアの生徒は日本語を学んでいる生徒であり、プレゼンテーションも

日本語で行われた。最後に、アメリカの日本人大学生からのプレゼンテーションが英語で行われた。それぞれのプレゼンテーションの後には、質問を受ける時間があり、互いにコミュニケーションを図った。プロジェクト終了後には、コメンテーターの方々や ATL システムズの方々との会食の時間を設けた。その中でも生徒は不慣れながらも英語を使ってコミュニケーションを図っていた。

iv) 成果と課題

【成果】

○プレゼンテーションを通して、英語を通してコミュニケーションをとることの楽しさを感じることができた。

○自分たちの英語が相手に通じているという、達成感を味わわせることができた。

○相手のプレゼンテーションを聞いて、理解できたこと・できなかったことに個人差はあったが、生徒は英語学習の大切さを感じ、これからの英語学習の動機づけとすることができた。

【課題】

○とっさに質問が来た時に、詰まってしまう。つなぎ言葉を用いるなどして、コミュニケーションに弊害が出ないようにしていきたい。

○英語の発音やイントネーション、アクセントなどをもっと意識させていく。

5. おわりに

自然環境や国際理解に対する意識は、机上の学習とともに実際に見たり、聞いたり、体験することにより、その意識が高まると考える。今回の登山学習や Be Open Project 活動を契機にして、生徒の心に自然に対する畏敬の念や国際理解に対する思いが深まることを期待したい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

■ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

■ 時間外活動の時間を使用

□ ユネスコクラブの活動として実施

□ その他（ ）